

## 第9回「学びの変革」委員会

出席者

校長(委員長)	○	教 頭	出張	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	教務主任(総括責任者)	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
総務部長	○	1学年主任	○	2学年主任	○	3学年主任	○

## 1 校長から

## (1) 旅費の執行に関して

SGH や SSH の高校の研究会に積極的に参加できるよう、10月中に執行状況をつくること。

※単なる学校訪問は不可

## (2) 尾北イノベーションについて

## ア 授業に関しての(校長から)

- ・授業がかわっていつている。着実に変革が進んでいるのではないか。
- ・ICTの活用に関して、全教室に整備完了した。ワンランク上の使い方をしてほしい。板書事項を減らして教材提示装置を活用することやタイマーを写して使用するなどの工夫もよい。
- ・昨日の授業では自分の解答を写してシェアリングしていた。シェアリングの最もねらいとするところは深い学びである。→意見を言い合う 生徒の発表に対してお互いダイアログ(対話)するレベルになれば完成である。
- ・従来通りの知識の定着は必要だが、ダイアログを通して深い学びにつなげる必要がある。

## イ 学びの変革について(校長から)

将来社会に出たときに、知識やマニュアルだけでは対応できない。そこでもう一つの要素として、協働が必要となってくる。一人の天才ではなく、一人一人がアイデアを出し合ってものを作るという社会にかわってきている。そこを自分の目線で考えられる力、物作り、サービス、生き方を考えることが必要で、どうやってその力を身に付けさせるかがわれわれに求められている。そのため、われわれも仕事のやり方を変えていかなければならない。学びの変革の原点に立ち返って、今の取組が学びの変革になっているか、足らざる部分を補ってほしい。

## 2 探究基礎 1年次のフィールドワークについて(実践推進リーダー)

## (1) 実践推進リーダー、1学年主任から説明

意見 研究を深めていくためには、3年次の研究を先行研究とすることが必要である。

受け入れ側は、去年も来たのに今年も来るのかとなる。「先輩たちがやったことについて、わたしたちはいま深めているのです」という形をつないでいくことが必要である。まだ着手していないのであれば、「先行研究」の研究が必要である。タテのつながりを利用する。3年生に聞きに行く。誰が研究しているのかを明らかにしておくこと。